

■ より魅力ある“まち”の実現を目指して
～100年に1度の「県都の顔づくり」～
大分市 都市計画部 都心活性化推進室 神野潔

1. はじめに

県都・中核市として、また、東九州の政治・経済・文化・交通などの拠点として発展してきた本市の中心市街地においても、郊外大型店の相次ぐ開業により、中心市街地の衰退が加速しています。

そのような中、平成20年7月に「あなたのライフスタイルを彩るまちへ」を中心市街地活性化の基本コンセプトとした第1期中心市街地活性化基本計画の認定を、また、平成25年3月には「大きく変化するまち 経営スキームによるまちづくり戦略の構築」を基本コンセプトとした第2期中心市街地活性化基本計画の認定を受け、公民連携のもと、活性化事業に取り組んでいます。

2. 大きく変わる“まち” ～活性化のチャンス～

本市は、平成23年4月1日に旧大分市市政施行100周年を迎え、この100周年の記念すべき節目の時期に100年の大計として、5.5kmに及ぶ大分駅付近連続立体交差事業による高架化や、49.6haの範囲での大分駅南土地区画整理事業、さらに都市計画道路庄の原佐野線等の関連街路事業が国、県、市それぞれの役割分担で、大分駅周辺総合整備事業と称して、総合的なまちづくりを実施し、それぞれが最終段階を迎えており、“まち”が大きく様変わりしています。

また、昨年3月のJR大分駅全線高架開業により南北が一つになった中心市街地では、市民の芸術文化活動や地域文化創造の拠点としてのホルトホール大分やJR大分駅ビル、大分県立美術館など集客力の高い施設が次々と誕生していきます。

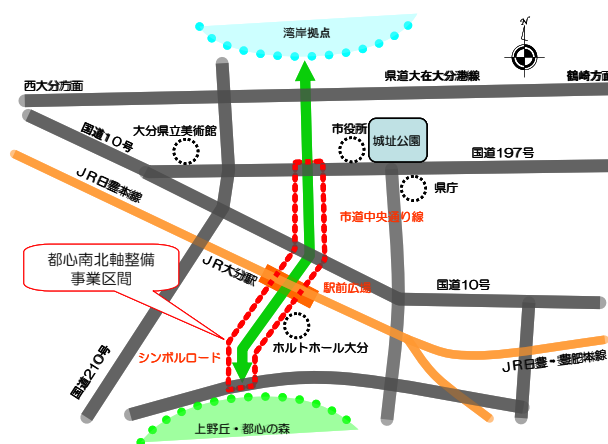
この大きく変わる“まち”を活性化のチャンスと捉え、このような施設に訪れた人々の回遊性を向上させ、中心市街地に新たな賑わいや憩いの空間の創出を目的として、前述の中心市街地活性化事業の1つであり、その中心に位置する「大分都心南北軸整備事業」に平成22年度から着手しました。

3. 都心の顔となるメインストリート

～大分都心南北軸整備事業～

将来都市像「ともに築く 希望あふれる 元気都市」を目指し、まちづくりの方針を定めた大分市都市計画マスタープランでは、本市を支所などを中心とした9つのブロックに分け、それぞれの地域でまちづくりの目標を定め、まちづくりを進めています。

大分駅を中心とする大分地区は、「緑あふれる広域都心の形成」をまちづくりの目標としており、その中に、「都心の顔となるメインストリート」として、都心南北軸が位置づけられています。



都心南北軸位置図

都心南北軸とは、北の大分港住吉泊地周辺の湾岸拠点から市道中央通り線、大分駅、シンボルロードを結び、南の上野丘・都心の森に至る都心軸であります。

平成22年度から着手した都心南北軸整備事業では、

都心南北軸のうち、シンボルロード、駅前広場、市道中央通り線の約1kmを対象として取り組んでいます。

本市としては、この都心最大の公共空間を視覚的・動線的な連続性に配慮した一体的な計画づくり、トータルデザインにより大分都心全体の「顔」としてふさわしい優れた回遊性のある空間づくりを目指しています。

この大分都心南北軸整備事業は、2つのトータルデザインコンセプトで進めています。

1つ目は、「小さな森から大きな森へ」ー市民が育む賑わいの舞台づくりーというコンセプトであります。賑わいと緑がセットになって連続的に展開するような空間づくりを目指しています。

2つ目は、「歩いて楽しい道へ、そして賑わいのある街へ」というコンセプトであります。

「市民協働のまちづくり」といった、本市の目指すまちづくりのもと、中心市街地の活性化に向けたワークショップや都心南北軸整備に関する意見交換等を開催する中で、これまで延べ約4,000名の市民に参画していただき、シンボルロード、駅前広場、市道中央通り線といった各エリアの整備方針を決定するとともに、整備計画を策定し、整備を進めています。

(1). 誰もが主役、市民で育てるみんなの広場 ～シンボルロード～



シンボルロードイメージパース

シンボルロードは延長約444m、幅員100mの都市計画道路であり、幅員100mの道路は札幌大通公園、名古屋久屋大通と若宮大通、広島平和大通りの4つしかなく、戦後の既成市街地の区画整理事業で、このような

道路を造ることは全国でも初めての事です。

大分市都市計画マスタープランでは、県都・大分市の玄関口として、市民が憩い交流できる緑豊かな通りと広場の整備を図り、うるおいある都市環境・景観形成を図ることとして位置づけられています。

整備方針については、前述の都心南北軸トータルデザインコンセプトを踏まえ、

1点目が、ゆったりとした緑豊かな通りと広場の形成を図ること、

2点目が、植栽や修景などにより個性と風格ある美しい通りの景観の創出を図ること、として整備を進めています。

100mの幅のうち約3分の2を市民の広場とし、全面を芝生で覆い、緩やかな起伏の丘を配置し、上野丘・都心の森へと繋ぐための園路を設け、園路に沿って休憩や景色を眺めることができるベンチを整備するとともに、大小2箇所のイベント広場も配置する中で、市民が憩い交流できる空間を創出します。

また、この広場は災害時には避難場所としての機能を有しており、災害用仮設マンホールトイレや飲料水兼用耐震性貯水槽といった災害時に必要となる施設も整備します。

市民が主体となって広場を育て、市民のための広場を目指すことから、本年3月には2,700名の市民参加のもと市民植樹祭を開催し、市民の手による芝張りや植樹を行う中で、広場の北半分の整備が完了し、隣接するホルトホール大分の本年7月20日開館に合わせ、広場の解放を予定しています。残りの南半分については11月に市民植樹祭を予定しています。



シンボルロードでの市民植樹祭開催状況

このシンボルロード広場の維持・運営・管理については、市民が愛着をもって育て、様々な場面で活動のステージとして利用できる広場を目指し、本年5月に地元自治会やまちづくりのNPO法人が主体となった市民協議会が立ち上がり、景観の保全や憩いと賑わいを創出するための活動を行っており、全国的にみても先進的な取り組みと思われます。

(2). 南蛮文化が香る交通と交流の広場 ～北口駅前広場～



北口駅前広場イメージパース

JR大分駅は1日の平均乗車人員が16,651人(2011年度)で、JR九州の駅別乗車人員数で4位に位置しており、九州における鉄道ネットワークの拠点的な駅となっています。

この様なことから、駅に隣接する南北駅前広場は、本市の顔となる玄関口として、また交通結節機能の核として位置づけられています。

広場面積16,200㎡(奥行き約150m、幅約110m)の北口駅前広場は、“まち”と“えき”をつなぐ“交通”と“交流”の拠点となる機能的な広場とし、にぎわいと回遊性を備えた駅前広場、を整備方針として整備を進めています。

駅からのアクセス向上はもちろんのこと、北側の中心市街地へとつなぐ架け橋として、賑わいや憩いといった、これまでにはなかった人々が集う交流広場を創出します。

戦国時代に豊後府内市内の一部を国際貿易都市として発展させた、郷土の英傑大友宗麟公がフランシスコ・ザビエルとの出会いによって開花した南蛮文化の

事象を、この交流広場の駅舎に近い位置に表現するために、大友宗麟公像とザビエル像の彫刻を向かい合うように配置し、当時の南蛮世界地図や宗麟の洗礼名であるフランシスコを表した印章なども配置します。

駅舎から離れた国道10号側には、市民広場として大きなテーブルを配置し集い憩える空間を整備し、イベント時にはこのテーブルが舞台となり賑わい空間としても活用できます。

南蛮文化が香る駅舎玄関口から市民広場に向う空間は、芝や高木といった緑を配置し、西側商店街の賑わいを醸し出しながら、北側商業地の賑わいに導く空間としました。

ロータリーの形状については、駅の玄関口から北側商店街への視認性を重視した卵形とし、国道10号交差点のコンパクト化を図り、横断歩道設置による国道10号交差点の平面横断を可能としました。

また、ロータリー内にはバス、タクシー、身障者用の乗降場、一般者降車場等の施設を配置します。JR大分駅ビル東側に確保した交通結節機能用地をプール機能(“静”)として整備することから、ショットガン方式(待機場所を別に設け、需要に応じてそこから送り出す方式)導入による最小限のタクシープール等、広場内での待機を極力少なくし、バース機能を重視した“動”の駅前広場を実現しました。

現在、北口駅前広場は平成27年春の駅ビル開業予定に間に合うよう鋭意整備中であります。

将来的な維持、管理については、ロータリー内は道路区域としての維持、管理を、交流広場については広場条例制定による利用しやすい広場管理を目指しています。

(3). 歩道空間の拡充による賑わい空間の創出 ～市道中央通り線～

市道中央通り線は延長約450m、幅員36mの震災復興事業により整備された都市計画道路であり、昭和60年代以降、都市防災や都市景観整備を目的に電線類の地中化や歩道の整備が行われました。

また、本路線は商業業務地を形成する基幹道路であり、交通機能は沿線及び通過交通用に供されるとともに、バス、タクシーの公共交通や商業業務用の荷捌き

機能を有する道路であります。また、歩道部は通勤通学、買物等多様な目的の往来に供されるとともに、イベントなどの賑わいの場としても活用されています。

大分市都市計画マスタープランでは、快適で魅力ある歩行者空間を充実させるとともに、東西の商業地の連携を促進し、回遊性を高める歩行者空間の形成を図るとし、中心市街地活性化基本計画では、ひと優先空間の再構築事業を行う路線と位置づけられています。

平成17年から平成19年にかけて3回開催され、34,000～52,000人もの賑わいが創出された中央通り歩行者天国によって、“賑わいの拠点”としての中央通りの可能性が確認され、中心市街地活性化協議会の前身である準備委員会から賑わい創出に向けた中央通りの減車線化が提案されたことが、そのように位置づけた背景として挙げられます。

中央通り減車線化の提案を受け、再整備に向けた整備方針については、

1点目が、回遊性を高め、にぎわいのある、歩いて楽しい人優先の歩行空間と潤いのある緑豊かなメインストリートとしての整備、

2点目が、バリアフリーにより安全で快適な空間形成を行い、オープンスペースでのにぎわいの創出を図ること、として整備計画素案を昨年11月、市民に提案しました。

整備計画素案としては、今後中心市街地に誕生するホルトホール大分やJR大分駅ビル、大分県立美術館といった集客力の高い施設を訪れた人々の回遊性を向上させ、中心市街地に新たな賑わいや憩いの空間を創出するため、現況6車線道路から3車線道路に減車線化し歩道空間を拡げる「歩道空間の拡充による賑わい空間の創出」を図ることとしました。

減車線化に対する交通量の検証については、現況交通量及び将来交通量に対しても容量的には問題はありませんが、減車線化により渋滞を招き、車による来街者が減少し商業地の衰退に拍車がかかると主張する現況6車線堅持派の声が大きく、賑わい創出のための減車線派はサイレントマジョリティの状態であります。

このような状況下のもと、交通渋滞等の検証や、賑わい創出のあり方、人の流れの検証等を行うための実証実験を行う必要があるとの方向性が示され、本年度、

実施することになりました。

現在、学識経験者や事業者、交通事業者、公安委員会、行政機関等々から構成される実証実験実施に向けた協議会を設立し、その実施方法について協議中であります。



市道中央通り線イメージパース

3. 最後に

今回紹介した「大分都心南北軸整備事業」は、本市の目指すまちづくり「市民協働のまちづくり」のもと、本市で初めての試みである、市民によるボトムアップ形式で事業を推進しており、庁内関係部局との連携を図りながら、オール大分市で取り組んでいます。

都心南北軸を構成するシンボルロード、北口駅前広場については大分駅南土地地区画整理事業地内に位置することから、平成26年度の事業完了を目指し鋭意整備中であります。市道中央通り線に関しましては前述の状況ではありますが、平成27年春開業予定のJR大分駅ビルの新たな賑わいを北側商業地に導き、中心市街地活性化のリーサルウエポンとなるべき、一日も早く整備に着手したい状況であります。

100年に1度と言われる「県都の顔づくり」を全国に誇れる、より魅力ある“まち”を目指し取り組んでまいります。

2013年7月入稿

九州の都市計画・Who's who?

このコーナーでは、日本都市計画学会員として九州でご活躍する都市計画実務者の方々をご紹介します。

【氏名】 ひぐれ こういちろう
日暮 光一郎

【所属・連絡先】 グローバル・ライフ・サポート株式会社
TEL : 092-263-5665 E-mail : k.higure@global-life-support.jp

【都市計画に関する学術・技術に関する活動内容】

次代に残せるまちづくりを視点に、土地利用（用途地域等）・各種都市施設の都市計画決定から、地域や生活に密着した計画づくりまで取り組んでいます。都市計画やGISの手法を取り入れて、遊休用地・建物の活用、再生可能エネルギーや買い物弱者等の調査・分析を行い、ワークショップ等を活用して、高齢者・障がい者等のための公共空間の調査、計画策定の支援を行っています。



【相談など受け入れ可能な事項】

都市計画マスタープラン、土地利用・都市施設の都市計画決定
土地・建物の有効利用、公共空間（道路等）・建築の計画・設計

【氏名】 おつじ のぶひろ
尾辻 信宣

【所属・連絡先】 アイランドシティ・アーバンデザインセンター
TEL : 092-984-3144 E-mail : otsuji@udci.jp

【都市計画に関する学術・技術に関する活動内容】

今年の4月より福岡市の湾内に建設中のニュータウンにあるアイランドシティ・アーバンデザインセンター（UDCI）に所属しています。UDCIは、公民学が連携するプラットフォームであり、地域が主体的にまちづくりに参画するための拠点です。受託するだけのコンサルではなく、都市計画、アーバンデザイン、エリアマネジメントを能動的に担うコンサルを目指して私はUDCIで活動を始めました。



【相談など受け入れ可能な事項】

景観計画、地区整備計画、広域振興計画、等々

【氏名】 あきづき ひろこ
秋月 裕子

【所属・連絡先】
@キツキプランニング 代表
住所 : 北九州市八幡西区折尾1-45-5-2F share OFFICE U
E-mail : zukiko-moon@u01.gate01.com

【都市計画に関する学術・技術に関する活動内容】

多様な視点とスケールから都市を読み取る地理学から、大学院進学をきっかけに都市計画の世界へ。現在は都市計画コンサルタントとして都市計画や土地利用、景観等を切り口に、地域のプランやルールづくり、また住民主体の活動支援等に従事しています。

また、事務所を構える折尾地区では、駅周辺総合整備事業が進められており、ライフワークとしても、魅力ある公共空間の整備や持続可能な地域環境づくりを目指して、地元のみちづくり協議会の方々と共に、紆余曲折、様々なことに取り組んでいます。

事務所の様子: 目標は地域づくりを語る
みんなのたまり場!



【相談など受け入れ可能な事項】

都市・地域計画、景観、地域活動支援（合意形成等のプロセスデザイン、イベント等の企画運営）等

第1回 日本都市計画学会九州支部幹事会議事録

日時：平成25年4月7日（日） 12:15～12:45

場所：九州大学西新プラザ

出席者：佐藤誠治, 外井哲志, 橋本信幸, 坂井 猛, 有馬隆文, 伊東博史, 大枝良直, 柴田 久, 趙 世晨, 堤 昌文, 寺町賢一, 姫野由香, 日暮光一郎, 箕浦永子, 吉武哲信 (15名)

議事内容

1. 前回議事録の確認 (佐藤)

事前メール審議にもとづき、前回の会議内容を確認した。

2. 総会資料について (坂井)

・総会等の資料および運営役割分担を確認した。

3. ワーキンググループにおける検討について (坂井)

・支部活動の検討について、①表彰制度 (趙) , ②都市計画分野の新人研修 (大枝, 内田 (智)) , ③学会会員の業績リストデータベース (都市計画九州 WHO'S WHO) (坂井) という内容と担当者と進めている旨、進捗状況の報告があった。

4. 「支部ニュース」 (4月発行分) について (姫野)

・4月発行分記事について報告があった。
・都市計画九州 WHO'S WHO の実施に向けて、支部ニュース内に新設する「九州の都市計画・最前線」の掲載例について報告があり、原案内容で承認された。

5. その他

・特になし。

第2回 日本都市計画学会九州支部幹事会議事録

日時：平成25年6月15日（土） 16:40～18:00

場所：九州大学箱崎キャンパス 工学部建築学科建築1番教室

出席者：佐藤誠治, 外井哲志, 橋本信幸, 坂井 猛, 赤星健太郎, 有馬隆文, 内田智昭, 大枝良直, 加知範康, 趙 世晨, 堤 昌文, 日暮光一郎, 三島伸雄, 箕浦永子, 吉武哲信 (15名)

議事内容

1. 前回議事録の確認 (佐藤)

・事前メール審議にもとづき、前回の会議内容を確認した。

2. 理事会報告 (4月12日, 5月24日分) (佐藤)

・別添の議事録に基づき平成25年度第1回理事会の議決事項として、会員の入退会, 研究委託案件 (1件), 平成24年度事業報告・収支報告及び平成25年度事業計画・収支予算, 名誉会員の推薦, 役員 (理事・監事) の一部改選, 功績賞・国際交流賞の選考, 財務改善に関わる基本方針, 常置委員会 (事業・国際) 委員の交代について承認されたことについて報告があった。

・別添の議事録に基づき平成25年度第2回理事会の議決事項として、副会長・専務理事代行・常務理事の選任, 各支部の支部長・副支部長の選任と支部長職務代行順位, 研究委託, 常置委員会委員 (編集) の交代, 第5回世界工学会議でのテーマII建設系サブテーマ協力について承認されたことについて報告があった。

3. 総会報告 (PS 実施報告, 課題等) (有馬)

・平成25年度九州支部総会時のポスターセッションについて実施報告があった。
・今年度は新しい取組みとしてポスターセッションの前にパワーポイントによる発表を実施したが、賛否の意見が出され、担当幹事を中心に次年度以降の開催に向けさらなる対応策の検討を行っていくことが確認された。

4. 平成25年度顧問幹事 (坂井)

・総会資料からの一部変更について説明があり、添付資料に示す原案のとおりで承認された。

5. 支部幹事会内の役割分担 (坂井)

・添付資料 (本人承諾済みの役割分担案) に基づき、幹事会内の役割分担の案について昨年度との変更点を中心に説明があり、原案通り承認された。

6. 平成25年度年間スケジュール (箕浦)

・添付資料に基づき、原案通り承認された。

7. 平成25年度幹事会議題 (坂井)

・添付資料に基づき今年度の幹事会議題が報告され、概ね原案どおり承認された。

・支部長より、毎回の幹事会において事業項目のすべてを議論することが提案された。

8. 都市計画サロン（橋本）

・添付資料に基づき今年度の都市計画サロン開催（日時・講師等）について説明があった。

・よりオープンな場でより多くの方にご出席いただけるような工夫が必要との指摘があり、次回以降の開催について改善を検討することが確認された。

9. 支部活動の検討（坂井）

・添付資料に基づき今後の支部活動の内容についての進捗状況について説明があった。

・「都市計画九州 WHO' s WHO」の書式については簡略化したほうが良いという指摘があり、次回幹事会で再提案されることが確認された。

10. 「支部ニュース」（7月発行分）（佐藤）

・7月発行分の執筆者案が紹介され、原案通り承認された。

・新設した「九州の都市計画・Who' s who?」の書式について案が出され、原案通り承認された。

11. 「支部だより」（6月号）（箕浦）

・添付資料により2013年5月に学会本部へ投稿済みの支部だよりについて報告がなされた。

12. 名義後援について（2件）（箕浦）

・別添資料に基づき福岡アジア都市研究所からの「2013年アジア都市景観賞」に関する名義後援依頼について、既に執行部で検討のうえ承認済みであることが報告された。

・別添資料に基づき福岡県からの「第26回福岡県美しいまちづくり建築賞」に関する名義後援依頼について報告があり、後援について承認された。

13. 会計報告（内田智）

・別添資料に基づき平成25年5月末現在の会計報告がなされ、原案通り承認された。

14. その他

・特になし。

■支部ニュースに関する問合せ・連絡先

支部ニュースに関するお問い合わせやご意見等がございましたら下記までご連絡ください。各種イベント（シンポジウムや講演会等）のお知らせ等を掲載することも可能です。案内文を下記までお寄せください。

【公益社団法人日本都市計画学会九州支部事務局】

TEL: 092-642-3346 FAX: 092-642-3347

E-mail: cpjij-q@arch.kyushu-u.ac.jp